

# なないろ

nanaïro

なないろの喜びと笑顔を  
みなさまにお届けします。

秋



vol.34



photo: 石戸 良子

じゃわめぐ夏

今号の1枚

デイサービス「虹のひろば」じゃわめぐ夏（詳細は3面に掲載しています。）

デイサービス虹のひろば夏まつり。ねぶた太鼓、手振金、化人、ねぶた衣装に拍手喝采、感動に涙あり。詳しくは3面で紹介しています。

# 私の戦争体験

社会福祉法人「虹」理事長／西脇 翼



今、ウクライナの上空襲に遭っている子供たちを見聞きして、私の幼少時代を想起して痛切極まりない思いである。

青森市は1945年(昭和20年)7月28日深夜から29日未明にかけて米軍による大空襲に遭遇している。その9日前の7月19日から20日にかけては福井市が大空襲に遭っている。私は1842年(昭和17年)6月1日に福井市で生まれている。

福井大空襲の時、私の母は、父が出征のため一人で3歳の私をおんぶし7歳の兄と9歳の姉を両脇に抱えて福井市内を逃げ回っていた。最後に母は火から逃れるために福井

市内を流れる足羽川(青森市でたとえれば駒込川のような川)に逃げ込んでいた。

私は、母が川に入ったところで私の足が水につかり「冷たい！」と叫んだことを記憶している。冷たかったことが刺激となり記憶させたものと思われる。他には深夜なのに真っ赤な夜景に真っ黒な貨車のシルエットも記憶している。

母は九死に一生を得たようなこの体験から、「唯唯諾諾とお上の言う事をきいてばかりいたのでは、とんでもないことになる！」と云う強烈な思い込み、信念のようなものをいただいたようである。

その後成人した兄と私が共

産党の活動家となるのだが、そのことについて母は「私がそうなるように育てたのだ」と云う言い方をしていた。私はもの心がつく10歳ころから左翼的思想になっていったが、それは母の影響が強かったようである。

それにしてもウクライナの子供たちは可哀想で気の毒でならない。親を亡くした戦災孤児を援助する国際組織が出来ないものかと思う。

戦後77年にもなるが、日本軍国主義に侵略された中国や朝鮮、特に朝鮮は南北共に未だに日本を友好国とは認めしていないことは周知のことである。ウクライナ国民がロシ



アを友好国と認めるには今後100年以上は必要であろう。何と悲しく、そして無益なことであろうか。それにロシアにとつても、かりにウクライナが全面的に降伏してロシアが勝利したとしても、自業自得ではあるが、世界の殆どの国を敵に廻してしまったロシアの被る損失も計り知れないものであろう。

ロシアは天然ガスなどのエネルギー原を売らないことで欧米に圧力をかけているつもりのようにあるが、エネルギー原を売る利益を放棄しなければならぬので、ロシアにとつても利益にならない。こんなことを続けて居れば国家的破産状態になることは明らかであろう。

だからどんな理由があっても戦争だけは起こしてはならない。



## 【七夕の夕食】

たなばたのゆうしょく



グループホームデネブ・アルビレオの通常のお食事は外部取り寄せですが、行事や入居者様の誕生日にはスタッフが食事を作ります。

7月7日、この日は七夕だったのでスタッフが夕食を担当しました。メニューは、ちらし寿司・豚汁・天の川ゼリー。ちらし寿司は金糸卵をたっぷりとのせて華やかにしました。デザートはゼリーの上に生クリームで天の川を描き、織姫(さくらんぼ)と彦星(みかん)を乗せて、七夕らしくデコレーションしました。

利用者様からは「美味しかった！次回の行事の料理が楽しみ！」と喜びの声が寄せられました。

グループホームアルビレオ  
世話人/千葉 堯正



## じゃわめぐ夏

### デイサービス「虹のひろば」夏まつり

7月26・27・28日の3日間夏祭りを開催しました。利用者様・職員によるねぶた囃子から始まり、跳入や化け人の登場、くじ引き(千本くじ)、お菓子の掴み取り、最後はしっとり雲谷音頭でしめました。ねぶた囃子では迫力のある太鼓音、手振金の綺麗な音、団扇についた鈴の音、ラッセラーラッセラーの掛け声が合っていて、とても賑やかで心がじゃわめいた瞬間でした。

また数名の利用者様には、実際太鼓も叩いていただき、力強く叩く姿が見られました。ねぶた囃子に合わせて団扇を振る利用者様、昔を懐かしみ涙ぐむ利用者様、様々な思いを感じながら参加されている様子がうかがえました。

利用者様からも「テレビでしかねぶたを観られないと思っていたから、思いがけず生でねぶた囃子を聞いてワクワクした。」「初めて太鼓を叩いてよい体験をした。楽しかった。」等の声を頂きました。皆さんと楽しいひとときを過ごせた事に感謝すると共に、青森の夏はやっぱり「ねぶた！」と感じる3日間でした。

デイサービス虹のひろば 介護福祉士/片山 敦子

## 2022 法人障がいサービス 苦情解決委員会

2022年7月8日(金)、地域活動支援センター八甲の地域活動交流室にて、苦情解決委員会の第20回定期総会が行われました。山崎事務局長の開会あいさつから始まり、2021年度の実績報告、2022年度の活動方針および構成員の確認、質疑応答がなされました。

閉会のあいさつでは第三者委員吉田氏より、「コロナ禍という殺伐としている中で努力していることが手に取るようにわかった。苦情の内容によっては地域を変えていく取り組みも必要になる場面もある。法人内だけではなく、1人1人声をあげて各々が暮らしやすい地域を作っていくことも必要。引き続き、苦労が生きたものになるよう励んでいきましょう。」と励みになるお言葉をいただきました。



今回の定期総会を通して、利用者様の声を吸い上げやすいような取り組みを各事業所で共有し、今後も引き続き取り組んでいくことを確認しました。引き続き、人権を尊重し、地域に根差した福祉・介護の提供を目指していきたいと思います。 苦情解決委員会 事務局/平野 千代野



癒しの  
インテリアです

### ドライフラワー

no.29

職員休憩室。

～ 緑と花と私 ～

昔から花や観葉植物を一生懸命育てても、ほぼ枯らしていた私。手間がかからないサボテンや多肉植物でさえも残念な結果に…。そんな私のそばに置いていても残念な結果にならない、癒されるものがありました！

以前、節目の際に頂いた花束がとても綺麗で、その時の気持ちをいつまでも忘れないために出した答えが「枯らす前に枯らしてしまおう」でした。素人の考えでただ逆さにして放置したところ、意外とうまくドライ

フラワーになりました。癒しとしてもインテリアとしても活用できることがわかり、そこからイキイキと咲いている花を見ても「この花はドライにしたらどんな感じだろう？」と考えるようになりました。枯れた花でもその花の色があまり変わらず残るものや、大輪が小さくなったり、気温や湿度、風当りを気かけたりなど、これは花や観葉植物を育てる感覚と似ていると思います。

これからも癒しをもとめてコツコツとドライフラワーを楽しみたいと思います。

デイサービス虹のひろば 相談員/工藤 康子

●ご意見・ご要望をお待ちしております。

この機関誌に関する、ご意見・ご要望、読者様の俳句・川柳・その他ご趣味などがございましたら、ぜひ下記までお寄せ下さい。



なないろ vol.34 2022年9月発行(次回発行予定 2022年11月) 発行部数/1,150枚 発行責任者/山崎繁喜

発行元/社会福祉法人「虹」 〒030-0131 青森県青森市間屋町1丁目15-10 TEL 017(738)1133 <http://nijijweb.net/>

配布先/社会福祉法人 虹 本部・デイサービス虹のひろば・デイサービス虹のひろば新城・ショートステイ虹の郷・ヘルパーステーションはるかぜ  
・居宅介護支援事業所 野いちご・地域活動支援センター八甲・自立訓練所 ほのぼの寮・グループホームあおぞら・福祉用具サービス七ツ星